

ナミビア

主要データ

国名〔英名〕	ナミビア共和国〔Republic of Namibia〕
面積 (km ²)	824, 292
海岸線延長 (km)	1, 572
人口 (百万人)	2. 1
人口密度 (人/km ²)	2. 5
GDP (百万 US\$)	11, 865
一人当り GDP (US\$)	5, 652
主要鉱産物：鉱石	銅、鉛、亜鉛、金、銀、マンガン、ウラン
主要鉱産物：地金	亜鉛
鉱業管轄官庁	鉱山エネルギー省 (Ministry of Mines and Energy)
鉱業関連政府機関	地質調査所 (MME Geological Survey)、国立地球科学・エネルギー情報センター (National Earth Science and Energy Information Centre)、地質経済課 (Economic Geology Subdivision)
鉱業法	鉱物資源法 (Minerals Act, 1992)、鉱業憲章策定中
ロイヤルティ	同上
外資法	外国投資法 (Foreign Investment Act, No.24 of 1993)
環境規制法 (環境影響調査制度、環境・排出基準の有無等)	特になし
鉱業公社	Epangelo Mining Ltd. (2009. 12 設立)
鉱業活動中の民間企業	Anglo American (英)、Rio Tinto (英・豪)、Exxaro Resources (南ア)、Weatherly International plc. (英)、Extract (豪) 等
近年の鉱業関連問題 (資源ナショナリズム、労働争議、環境問題等)	・ 近年、鉱業憲章改訂や国営鉱山会社の設立に加え、鉱業の国有化や超過利潤税の導入の検討など、鉱業政策の見直しの動きが盛んである。
2010 年のトピックス	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2010 年、鉱業憲章の骨子を公表。現在 BEE を盛り込んだ鉱業憲章を策定中。 ・ 2010 年 7 月、国営鉱山会社 Epangelo Mining Ltd. 社長に元国営企業トップの Eliphaz Hawala 氏が就任。 ・ 2011 年 4 月、戦略的鉱物 (ウラン、金、銅、ダイヤモンド及びレアアース等) の新規の探鉱・開発案件については、国営鉱山会社のみライセンスを付与するとの閣議決定を実施。 ・ 2011 年 5 月には鉱山エネルギー大臣が超過利潤税導入の検討について、また 7 月には鉱業税引き上げについて発言するなど、資源ナショナリズムの動きが注目される。

1. 鉱業一般概況

2010 年のナミビア経済は、世界経済の回復に伴い、GDP 成長率が 4. 6%と 2009 年の-0. 7%から大幅に回復した。主な要因は鉱業等一次産業の GDP 成長率が 13. 3%と 2009 年の-26. 9%から反転したため

である。中でも主な輸出製品であるダイヤモンドの生産は対前年比 56.6%増の 147 万カラットであった。2011 年のナミビア経済も引き続き好調で、GDP 成長率は 4.1%となると予想されている。

ナミビアの主要産業は、鉱業、漁業、農業、観光であり、中でも鉱業は輸出額の 5 割以上を生み出す主力産業である。特にダイヤモンド分野では、世界最大手 De Beers 社と共同で政府が会社を設立し、生産、加工等の高付加価値化を推進している。また、ウラン、亜鉛、銅、蛍石、金、銀等も主な生産物となっている。

近年、ナミビアの鉱業においては、ダイヤモンドだけでなくウラン生産の増大が注目されている。同国のウラン探鉱は 1950 年代後半に始まり、1960 年代後半からは大規模な探鉱が始まった。その結果、国内に多くのウラン鉱床・鉱徴地の分布が判明し、既知ウラン資源量は 27.5 万 t(世界全体の 5%)、世界第 8 位となっている。同国のウラン資源は、低品位ながら規模が大きいという特徴を有している。2010 年のウラン生産量は 4,347t で、カザフスタン、カナダ、豪州に次いで世界第 4 位である。

現在生産中の鉱山は Rossing 鉱山(1976 年生産開始)及び Langer Heinrich 鉱山(2007 年生産開始)の 2 鉱山であるが、近い将来、Trekopje 鉱山や Valencia 鉱山、また Husab 鉱山も生産を開始する予定で、今後、同国のウラン生産は大幅な増加が見込まれる。

2. 鉱業政策の主な動き

近年、同国では鉱業憲章の改訂や国営鉱山会社の設立に加え、鉱業の国有化や超過利潤税の導入の検討など、鉱業政策の見直しの動きが盛んである。

2009 年 4 月、政府は、排他的探鉱ライセンス(Exclusive Prospecting License)の新規申請や更新の際には、現地株主所有権の導入や現地貧困対策への取組みを求めることを発表し、既に 2010 年 10 月には、Anglo American 社(英)から Vedanta 社(英)への Skorpion 亜鉛鉱山の権益売却の承認に際して、政府競争政策委員会(NCC)は、地方投資家への株式売却の勧告等を実施した。こうした中、政府は 2010 年、鉱業憲章の骨子を発表し、パブリックコメントに付したが、最終的な策定はされていない。

一方、ウラン政策については、2007 年から新規のウラン探鉱ライセンス交付を猶予するモラトリアム政策を実施している。2009 年 2 月、政府は原子力エネルギー・放射能保護法に基づき、ナミビア原子力委員会(Atomic Energy Board of Namibia)を立ち上げた。同委員会は数年中にウランの探鉱と開発が増加することを見込み、同国の原子力エネルギー政策を策定する方針としている。

また、2008 年 7 月、ナミビア国営鉱山会社 Epangelo Mining Ltd. が 100%政府出資(150 万 N\$; 約 1.8 億円)で登記され、2009 年 12 月 3 日に正式に設立している。2010 年 8 月にはダイヤモンドのカット・研磨を行う国営企業 NamGem のトップであった Eliphaz Hawala 氏を社長に迎え、事業活動を開始するなど鉱業における国の関与の増大に向けて存在感が増している。

2011 年 4 月、政府は戦略的鉱物(Strategic Minerals: ウラン、金、銅、ダイヤモンド及びレアアース等を含む)の探鉱及び採掘ライセンスを国営公社のみ(現在想定されるのは Epangelo Mining 社 1 社)に付与するとの閣議決定を行った。これに対して、2011 年 5 月 10 日付で Katali 鉱山エネルギー大臣は『ナミビアの鉱業における官民パートナーシップに関して』と題した声明文を発表し、上記閣議決定は、既得のライセンスには適用されないことを明確にした。同声明文の中で、Katali 大臣は、今般の閣議決定は同国の憲法に則る措置であることに言及するとともに、この閣議決定について、ナミビア鉱業会議所からの質問状への回答を紹介する形で、以下のような政府見解が公表された。

- ・ 既得の探鉱ライセンス及び開発ライセンスの延長には適用されないが、探鉱活動を長期間行っていない場合には、既存ライセンス保有者に不利な影響のないように政府との共同開発について検討を行うこと。
- ・ 現在既に行った探鉱ライセンスまたは開発ライセンスの申請、さらには既存の探鉱ライセンスから採掘ライセンスへの移行申請に関しては、従来 of 制度に従って、実績に基づき審査されること。ただし、増資(債務の株式化を含む)を行う場合、ナミビア政府が優先交渉権を要求する可能性

がある。

- ・ 既存の採掘ライセンスに隣接する探鉱ライセンスを採掘ライセンスに移行する場合には、既存の採掘ライセンスに組み入れるが、ライセンス保有者の開発能力が十分でない場合には、新たな共同開発がオプションとなり得ること。
- ・ 既得の探鉱ライセンスに新たな鉱区及び鉱物を追加する場合には、新規の申請とみなされることから、今回の閣議決定が適用されること。

また、2011年5月17日 Katali 鉱山エネルギー大臣は、ナミビア鉱業会議所総会のスピーチで、同国の鉱物に対する超過利潤税 (windfall tax) の導入を検討中であると表明しており、産業界には突然の表明に懸念の声が上がっている。

なお、2010年7月、JOGMEC は、同国鉱山エネルギー省 (The Ministry of Mines and Energy of the Republic of Namibia) と鉱物資源の探査・開発など資源分野で関係強化を図る包括的な内容の覚書 (MOU) に署名した。今後、衛星画像データを用いたデータ解析手法について共同技術開発を開始する予定である。

3. 主要鉱産物の生産・輸入・消費・輸出動向

(1) 主要金属鉱石生産量

表 3-1. 金属鉱石生産量

鉱種	2008年	2009年	2010年	対前年増減比 (%)
銅(千 t)	8.8	-	-	-
鉛(千 t)	14.3	10.2	9.8	-3.9
亜鉛(千 t)	193.0	198.0	204.2	3.1
銀(t)	7.7	0.7	-	-
マンガン(千 t)	90.0	51.5	131.5	155.3
ウラン(t)	4,366	4,537	4,347	-4.2

(出典: World Metal Statistics 2011)

(2) 主要金属地金生産量

表 3-2. 金属地金生産量

鉱種	2008年	2009年	2010年	対前年増減比 (%)
亜鉛地金(千 t)	144.4	150.4	151.7	0.9

(出典: World Metal Statistics 2011)

(3) 主要金属消費量

表 3-3. 金属地金消費量

鉱種	2008年	2009年	2010年	対前年増減比 (%)
亜鉛地金(千 t)	91.2	84.1	93.0	10.6

(出典: World Metal Statistics 2011)

(4) 主要金属輸出量

表 3-4. 精鉱中含量・地金輸出量

鉱種	2008年	2009年	2010年	対前年増減比 (%)
亜鉛地金(千 t)	139	-	-	-

(出典: World Metal Statistics 2011)

(5) 主要金属輸入量

データなし

4. 鉱山・製錬所状況

表 4-1. 鉱山一覧

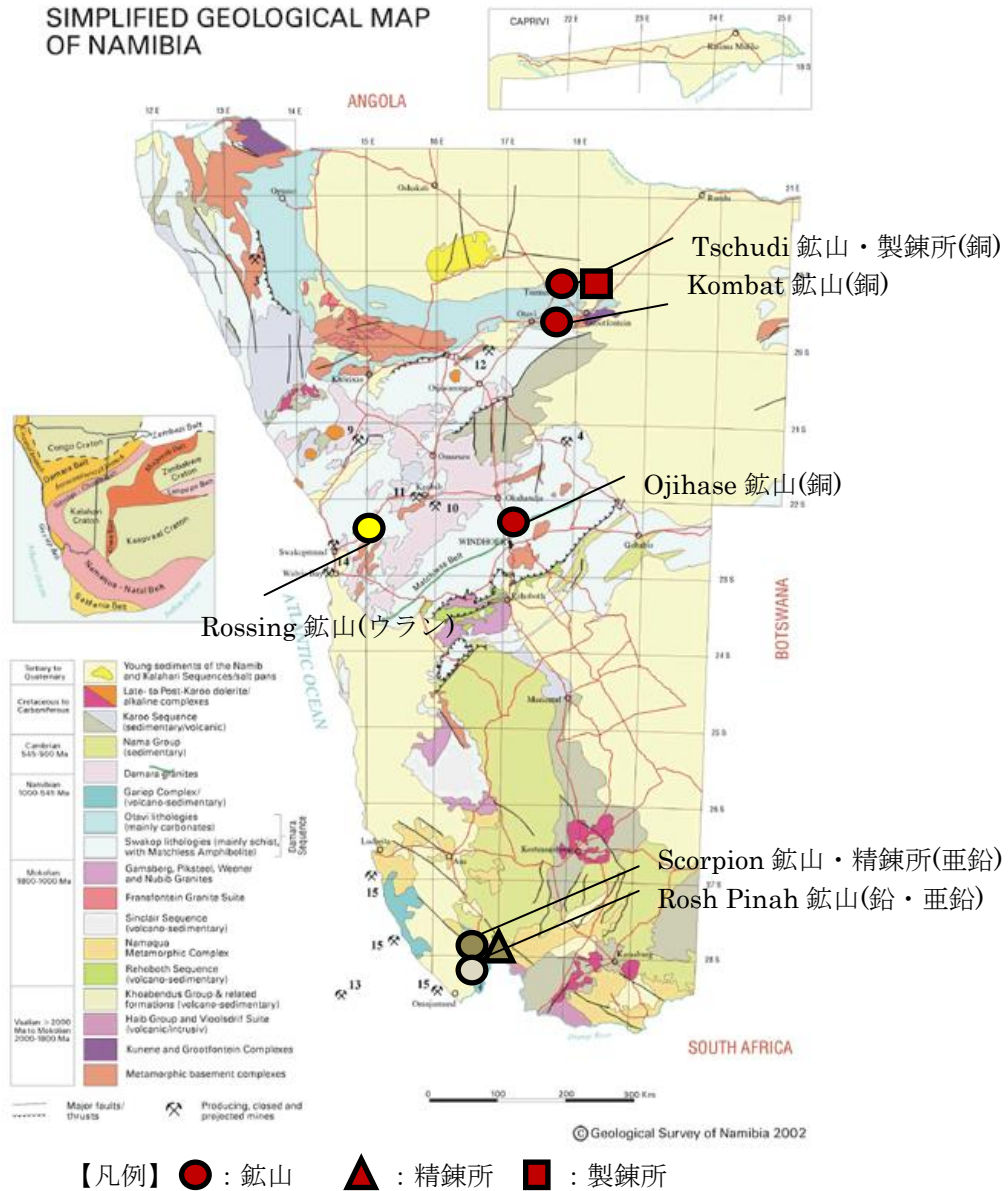
鉱山名	権益所有企業（権益：％）	鉱種	生産量 (千 t)	備考
Otjihase 鉱山	Weatherly International plc. (100)	銅鉱石、銅	3.6	2008 年 12 月操業休止、2009 年に再開したものの再停止中。2011 年初めに生産再開予定。 生産量：2009 年
Tschudi (Tsumeb West) 鉱山	Weatherly International plc. (100)	銅	1.2	同上 生産量：2009 年
Kombat 鉱山	Grove Export CC(100)	銅	-	2009 年以降生産休止中。 2010 年 5 月、Weatherly Int' l 社から Grove 社が買収。
Skorpion 鉱山	Sterlite Group (100: Vedanta Resources plc. が 53.9%の株式保有)	亜鉛	151.7	2010 年 10 月、政府は Anglo American から Vedanta 社への権益の譲渡を承認すると同時に、現地企業に株式を売却するよう勧告した。生産量：2010 年
Rosh Pinah 鉱山	Exxaro Resources Ltd (50.04), Jaguar (38.99), Pe Minerals (8), Employees (2.97)	鉛精鉱、 亜鉛精鉱	19.0 96.0	2009 年に浮遊選鉱の交換作業を実施し、2010 年に生産再開。 2008 年 1 月、2014 年閉山を発表。 生産量：2009 年
Rossing 鉱山	Rio Tinto(68.6)、イラン政府 (15)、Industrial Development Corp. (南ア政府) (10)、ナミビア政府 (3)	ウラン(t)	4,599.0	2011 年 2 月、Rio Tinto と Extract 社は、Rossing 鉱山に隣接する Husab 鉱山の共同開発について検討を実施中。 2009 年 8 月、Rio Tinto は、同鉱山の寿命を 2023 年まで延長可能と発表。 生産量：2010 年
Langer Heinrich 鉱山	Paladin Energy Ltd. (100)	ウラン(t)	1,521.9	生産量：2010 年

表 4-2. 製錬・精製所生産状況

製錬・精製所名	権益所有企業（権益：％）	鉱種・形態	生産量 (千 t)	備考
Tsumeb 製錬所	Dundee Precious Metals Inc. (加) (100) (2009 年 1 月以前は Weatherly International plc. が所有)	粗銅、銅	18.5	生産量：2008-2009 年 2010 年 1 月、Weatherly Int' l 社から Dundee Precious Metals Inc. (加) が買収。
Skorpion 精製所	Vedanta 社(100) (2010 年 10 月以前は、Anglo American が所有)	亜鉛	151.7	生産量：2010 年 2010 年 10 月、Anglo American から Vedanta 社が買収。

(出典：各社 Annual Report)

SIMPLIFIED GEOLOGICAL MAP OF NAMIBIA



5. 探鉱状況

Vedanta 社及び Exxaro 社は、Skorpion 及び Rosh Pinah からの将来的な鉱石供給のため、共同で Gergarub 鉱区の探鉱を実施中である(2011年5月)。

Omitiomire 銅プロジェクト(首都 Windhoek から北東に 120km)では、豪州 IBML 社が探鉱活動を実施中である。なお、同社は、Kalahari Copperbelt プロジェクトについても開発移行を検討中である。

Lofdal レアアースプロジェクト(ナミビア北西部)では、Namibia Rare Earths 社(Endeavor Mining Corp. 41%)が 2011年6~8月に 7,500m の試掘を実施予定。さらに 2011年4月のトロント市場上場による資金調達を受けて、

今後 8~12 か月かけて 15,000m の試掘を行う予定である。

6. 我が国との関係

(1) 日本への輸出

表 6-1. 日本への精鉱・地金輸出力

鉱種	2008年	2009年	2010年	2010年前年増減(%)
亜鉛地金(t)	14,884	13,517	7,986	-40.9

(出典：財務省貿易統計)

(2) 日本企業による投資状況等

Husab ウラン・プロジェクト(旧称:Rossing South)について、伊藤忠商事(株)が権益の 16.3%相当を取得している。内訳は、Husab プロジェクトを 100%保有する Extract Resources 社(豪州)の筆頭株主(40%を保有)である Kalahari Minerals 社の株式の 15%を伊藤忠商事(株)の 100%子会社 Nippon Uranium Resources Pty Ltd.(豪州)が保有しているとともに、伊藤忠は上記 Extract 社の株式を 10.3%取得している。

Rossing ウラン鉱山の南方 5km に位置する Husab ウラン・プロジェクトは、Extract 社が 2014 年からの操業を目指し、探鉱・開発中である。同社が 2011 年 4 月 5 日に発表した最終的な詳細 FS 結果によれば、鉱区 Zone1~5 のうち Zone1~2 の最終的な詳細 FS の結果、埋蔵量は 2 億 500 万 t(品位 497ppm、ウラン含有量は 2 億 2,500 万 lb)、開発総額は 16.6 億 US\$、年間 1,500 万 t 鉱石生産、年間 U₃O₈ 生産は 1,500 万 lb(約 6,800t)、マインライフ 16 年、生産コストは 28.5US\$/lb となり、生産が開始されれば世界 3 大ウラン鉱山のひとつとなる予定である。今後、2011 年 6 月までに投資判断を行い、2014 年 Q1 に生産開始予定であるが、同社は並行的に、1,500 万 US\$ を投じて Zone3~5 の追加 FS を行う予定であり、これによりマインライフは最大 30 年に延長できるとされている。なお、現在開発移行に際して、Extract 社と Rio Tinto 社が既存の Rossing 鉱山と Husab プロジェクトの共同開発について検討を行っている」と発表されている。

7. その他トピックス

特になし

(2011.7.21 ロンドン事務所 萩原崇弘)